

ミツバチは永久の友

ひとはく連携活動グループ アピス同好会

報道各社が、今春「蜜蜂の減少」を取り上げて、特別番組として放映されたので、多くの国民の目にとまったことでしょう。未だ、その原因は解明されておりませんが、複合汚染？がさやかれております。私たち「アピス同好会」は単にミツバチを飼って楽しんでいるだけではありません。ハチの習性を正しく理解して頂く運動と、街中などに営巣したミツバチを殺すことなく保護をして、飼育して増やしています。

昨年からはミツバチの減少が世界的な規模で進行していることをうけて、その原因の追求や複合汚染とも言われている現状の啓蒙活動にも取り組んでおります。小さな昆虫が生きられない地球は、人類もまた生きられないことは明白であります。昨今、お金さえ出せば何でも手に入る時代ですが、安全や安心はそうたやすく手に入る時代ではありません。

日本の国内における食品偽装は、ある新聞社の情報公開請求で食品表示に違反があったとして、農林水産省が2008年、小売業者などに日本農林規格（JAS）法に基づき行政指導や厳重注意をしたケースは879件あり、このうち公表したのは110件だけで、残る769件は非公表。国の態度に国民の一人として憤りを感じます。違反業者を指導する権限は都道府県にあり、それらを合わせると相当数の違反が存在する可能性は否定できません。この事実を見てもあなたが手にする「本物・手作り」とうたわれている商品を本当に信用し、安心して良いのでしょうか？

一方、最新の蜂蜜研究論文によれば、市販されている「純粋蜂蜜」はかなり問題な商品だと言わざるを得ません。大量供給の中国の蜂蜜からはスーパー抗生物質と言われた「シプロフロキサシン」が多数検出されております。安価なハチミツを摂取していると、知らぬ間に強力な抗生物質を体内に入れていることになります。

また、インドのある会社では格安のシロップや水飴などを「酵素的加工」をし、蜂蜜類似物として販売、そのパンフレットには、天然のハチミツをチェックするあらゆる検査機関もすべてパスをすると保証し、蜂蜜の代用品として使えると請け合っていると、記されております。

私たちはミツバチという小さな昆虫を通して、環境や未来を考えそれを多くの方に伝えてゆきたいと活動しています。私たちは、多くの方に本物のハチミツを提供するには、会で採れたハチミツを「みつしぼり」と言う形で体験して頂き、自分で絞った本物入手するという、至ってシンプルに、そして本物を提供出来るよう活動して参りましたが、今後もこのような形で提供できればと思っております。今後の会の活動として、ハチミツの「治癒力」を研究し、単においしいだけでなく、薬としての機能を多く持っていることを広報しなければならないと思っています。

ある研究者は、ハチミツは地球上に存在するもっとも強力な抗菌物質の一つで、細菌や真菌などの微生物を殺す力を持っていると断言する。

古代文化ではハチミツを傷を覆う薬として使っていた事実。風邪薬・ストレス・抗ガン作用。

ハチミツではありませんが、ハチの毒針を使った治療は中国では盛んにおこなわれていて、日本からも多くの方が、高額な治療費を払って、中国に行っている事実。ハチミツの持つ薬効のほんの一部にすぎません。私たち人間の永久の友として、ミツバチ達が繁殖できる環境を守りながら、活動を続けて行きたいと思えます。

「アピス同好会」はハチは永久の友として、保護や正しい知識の普及活動を行っています。この写真は博物館内の養蜂場と内検（ハチの健康管理など）と保護活動のスナップです。たくさんのハチが私たち会員と戯れています。そのハチを愛おしく世話をされる様をご覧ください。

